

医療者のための Excel 入門 超・基礎から医療データ分析まで 第2版

田久浩志(著)

大阪国際がんセンター看護師長

山田眞佐美

個人レッスンを受けているように 作業が進む一冊

皆様が本を選ばれる時の基準は何でしょうか？ 著者？ タイトル？ ベストセラーかどうか？ どれも気になる内容ですが、私は、(1)見た目の良さ(表紙がすっきりしていて読みやすそうかどうか)、(2)手に取った時の手触り(自分の手にしっくりとくるかどうか)、(3)ページをパラパラとめくった時の紙の質感(指のひっかかりはよいが、ページはめくりやすいか)、(4)最後まで読めそうかどうか(目に痛くない色使い、文字が見やすくて、読みやすそうかどうか)、(5)重たさ(手や腕に負担なく読めそうかどうか、持ち運びに耐えうる重たさか)を重視しています。解決したいことや学びたい意欲があるからこそ本を読むのだと思いますが、いくら良いことが書かれていても、自分の頭のの一部になるくらいまで何回も読んで内容を理解できないと、知識やスキルにつながる役に立つ本とはならないからです。

一冊の本との出会いが人生を変えることもあります。私は現在、立命館大 MOT 大学院テクノロジー・マネジメント研究科博士課程後期課程に在籍していますが、研究者としてのルーツは、上の(1)～(5)の山田基準を満たした田久浩志先生らの『看護研究なんかこわくない—計画立案から文章作成まで』(医学書院)を2000年に読み、初めて看護研究に取り組んだことにあります。どの入門書を選ぶかは、その後の好き・嫌いを左右し、人生にも影響します。「下手の横好き」とは「下手なくせに、その物事が好きで熱心であること」のことわざですが、私と看護研究の関係はまさにこれ、横好きを育てて下さいましたのが田久先生です。

今回ご紹介させていただく『医療者のための Excel

入門—超・基礎から医療データ分析まで 第2版』は、まず(1)～(5)の山田基準を満たしています。肝心の内容はというと、実際の Excel 画面がふんだんに使われているので、とにかくその通りに読み進めれば、まるで個人レッスンを受けているかのごとく作業が進みます。「データを手際よく入力する」「Excel で PowerPoint の原稿を作る」など、先人が四苦八苦しながら格闘されてきた内容が、「裏ワザ」として気前よく公開されているのも本書のお値打ちなところといえます。田久先生は指導者として、どうやってわかりやすく教えるかを常に研鑽されています。本書は文字の配列や色使いも絶妙で、どうやってわかりやすい本を世に届けるかといった医学書院さんのノウハウが結集された、歴史とセンスを感じる一冊に仕上がっています(上から目線になってしまひすみません！)。

本書の「おわりに」に「データの分析能力が伸びる方の共通点は好奇心」と記されています。「継続は力なり」ということわざがありますが、実際は「継続したこと(だけ)が力」になります。「好きこそものの上手なれ」です。医療の発展は人類の幸せ。研究は人類の幸せのために行うものです。本書をきっかけに「自分が集めたデータをもとに誰もが知らない世界に足を踏み入れ、誰もが知らないことを知り喜びを感じる」仲間が増えることを願っています。



●B5/頁 184/2020 年
定価：本体 2,400 円＋税
[ISBN978-4-260-04079-2]
医学書院 刊